

・情報管理体制の構築や運用における要点を分かりやすく解説！

1名分料金で
2人目無料

ラボにおける研究情報管理電子化と AI活用を見据えた管理方法(LIVE配信)

- ◆日時：2022年05月16日(月)10:30~16:30
 - ◆会場：自宅や職場など世界中どこでも受講可
 - ◆聴講料：1名につき55,000円(税込、資料付)
- ※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。
- ・1名でお申込みされた場合、1名につき**49,500円(税込)**
 - ・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で55,000円(税込))**

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師：ラボコンサルテーション(株) 代表取締役 島本 哲男 氏【元アスピオファーマ(株)】

- | | |
|--|---|
| <p>1.情報とは</p> <p>2.研究・生産情報を管理する必要性</p> <p>2-1 情報を管理する目的 2-2 研究・生産情報の管理がなぜ重要なのか</p> <p>2-3 情報管理におけるコンプライアンスが崩れると</p> <p>2-4 知財保護の観点からの研究記録 2-5 サイエンスの裏付けとしての実験記録</p> <p>2-6 研究記録を保証するための3要件 2-7 Data Integrity</p> <p>2-8 研究不正を防止するには</p> <p>3.情報管理における電子化の重要性</p> <p>3-1 研究情報管理における電子化の流れ 3-2 電子システムを活用するメリット</p> <p>4.電子情報管理システムの種類</p> <p>4-1 電子情報管理システムの種類 4-2 それぞれのシステムが使われる部門</p> <p>4-3 電子情報管理システムにおける共通の要件</p> <p>4-4 バリデーション:システムの保証 4-5 バリデーションの進め方</p> <p>4-6 CSVの実施、運用において証明すべき要点 4-7 電子情報管理システムの動向</p> <p>5.電子署名・監査証跡とは</p> <p>5-1 監査証跡の定義 5-2 電子署名とは 5-3 電子署名の形態</p> <p>6.電子実験ノート展開の歴史</p> <p>7.化学系電子実験ノートの使われ方</p> <p>7-1 化学合成研究者向け電子実験ノートの例</p> <p>7-2 化学合成研究者の作業における比較</p> <p>7-3 化学合成研究者にとって電子実験ノートの便利なところ</p> <p>7-4 所持や合成してはいけない物質への対処</p> <p>8.分析業務、品質管理、安全性試験部門にとっての試験情報管理システム</p> <p>8-1 当該部門における情報管理の特徴</p> <p>8-2 当該部門において要求される情報管理体制の要件</p> <p>9.特性評価・生物系研究者にとっての電子実験ノート</p> <p>9-1 研究部門別で研究者にとっての電子情報管理の展開の程度</p> <p>9-2 そもそも生物系ELNとは</p> <p>9-3 電子実験ノートが広がりにくい部門での特徴</p> <p>9-4 電子環境における検索機能の圧倒的優位性</p> | <p>10.測定機器データの保全管理</p> <p>10-1 よくある測定機器データの管理方法 10-2 測定機器データの特徴(課題)</p> <p>10-3 研究機器データ管理システム:SDMSの基本機能</p> <p>10-4 部門別にみるLIMS/SDMSの導入事情</p> <p>10-5 A社でSDMS導入プロジェクトを立ち上げたものの</p> <p>10-6 測定機器データの電子管理を始めるには</p> <p>10-7 測定機器データのLAN接続集中管理</p> <p>10-8 専用ファイルサーバーでの測定機器データ管理の留意点</p> <p>10-9 LAN非接続の測定機器データ管理の留意点</p> <p>11.クラウド系システムの出現</p> <p>11-1 オンプレミスとクラウドの違い 11-2 信頼性対応におけるクラウドの位置づけ</p> <p>11-3 クラウドが適する活用形態 11-4 クラウドシステムによる恩恵</p> <p>11-5 クラウド系システムが適する部門、分野の例</p> <p>12.電子的な情報管理体制がもたらすもの</p> <p>12-1 電子実験ノートを運用してみてもわかったこと</p> <p>12-2 ドキュメントカテゴリーに応じたプラットフォーム間連携を意識した環境</p> <p>13.AIの活用を見越して</p> <p>13-1 ComputerとAIの違いは 13-2 AIを支える基礎ツール</p> <p>13-3 AIに期待されているもの、得意分野</p> <p>13-4 AIがデータを活用できるようにしておくには</p> <p>14.電子情報管理システムの導入・展開における課題と対応策</p> <p>14-1 目的/目標/手段を明確にする 14-2 要求仕様の設定</p> <p>14-3 プロジェクトを進める体制 14-4 役割分担</p> <p>14-5 標準化/共通化 14-6 運用体制における監視の重要性</p> <p>14-7 紙と電子の違いに対する理解</p> <p>14-8 電子管理体制構築におけるよくある落とし穴</p> <p>15.電子情報管理に基づくDXの進め方</p> <p>15-1 情報管理電子化によって目指す目標 15-2 電子的情報管理体制の盲点</p> <p>15-3 溜めておく価値/意味のある情報</p> <p>15-4 情報の有効活用によって活動の水準を向上するには</p> |
|--|---|

【LIVE配信セミナーとは?】

- ・本セミナーは「Zoom」を使ったライブ配信セミナーとなります。「ミーティング用Zoomクライアント」をダウンロードするか、Web ブラウザから参加するかの2種類がございます。ZOOM WEBセミナーのはじめかた (<http://www.rdsc.co.jp/files/instruction/zoom.pdf>) をご覧ください。
- ・お申込み後、受理のご連絡メールをさせていただきます。一部メールが通常セミナー形式(受講券、請求書、会場の地図)になっておりますが、LIVE配信のみのセミナーです。
- ・お申込み後、接続テスト用のURL (<https://zoom.us/test>) から「ミーティングテストに参加」を押していただき動作確認をお願いします。
- ・後日、別途視聴用のURLをメールにてご連絡申し上げます。セミナー開催日時の10分前に、視聴サイトにログインしていただき、ご視聴ください。
- ・セミナー資料は郵送にて前日までには、お送りいたします。タブレットやスマートフォンでも視聴できます。
- ・ご質問については、オープンにできるご質問をチャットにご記入ください。個別相談(他社に知られたくない)のご質問は後日メールにて講師と直接お願いします。

『電子実験ノート【WEBセミナー】』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたします。受講用URLは後日お送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>